

【公表用】

令和元年度 第1回レイヤー種鶏導入および素ひな計画生産の概要

月 日 : 令和元年7月11日(木)

場 所 : 馬事畜産会館 会議室

1 レイヤー種鶏導入調査結果

この調査は令和元年6月現在の種鶏導入実績（平成30年次と平成30年度）及び種鶏導入計画（令和元年次と令和元年度）について、全国のレイヤー孵卵場22場（前回24場）からの統計データを集計したものである。

2 種鶏導入計画羽数（令和元年次と令和元年度）（表1）

令和元年次の種鶏導入計画羽数（調査報告）は、112万5,113羽と平成30年次実績110万7,824羽に比べ1.6%増と計画されている。年度ベースでは、令和元年度が110万0,059羽と30年度の112万5,523羽に比べ2.3%減少する計画となっている。地域別に見ると、年次ベースでは、東日本が前年より6.8%減（30年次70万9,464羽が令和元年次には66万1,193羽）で、年度ベースでも同様に2.9%減（30年度69万9,763羽が令和元年度には67万9,719羽）となっている。

中部は、年次ベースでは前年より15.5%増（30年次25万0,020羽が令和元年次に28万48,720羽）であるが、年度ベースでは11.4%減（30年度28万3,220羽が30年度に25万1,020羽）となっている。

一方、中四国・九州は、年次ベースでは、前年より18.1%増（30年次14万8,340羽が令和元年には17万5,200羽）となっているが、年度ベースでも18.8%増（29年度14万2,540羽が令和元年度には16万9,320羽）となっている。

この調査羽数をもとに令和元年次及び令和元年度の全国種鶏羽数を推計すると、令和元年次が117万7,000羽（前年次118万9,000羽に対して1.0%の減少（羽数ベース-12,000羽））、令和元年度が114万6,000羽（前年度119万7,000羽に対して4.2%の減少（羽数ベース-51,000羽））が見込まれている。（表1-令和元年推計*）

（*1） カバー率による指数

（A）平成30年次の（一社）日本種鶏孵卵協会調べの国内産種鶏雌導入羽数と農林水産省動物検疫所による輸入初生ひなの輸入実績（卵用種鶏）をあわせた羽数は、118万9,000羽（30年度ベースでは、119万7,000羽）。

（B）種鶏導入調査による平成30年次の導入羽数実績は110万7,824羽。
（30年度ベースでは、112万5,523羽）。

（C）カバー率（B）／（A）＝93.2%（年度ベースでは、94.0%）

（D）指数（A）／（B）＝1.0733（年度ベースでは、1.0635）

3 令和元年次及び令和元年度の採卵用素ひな生産見込み（出荷能力） （表2）

令和元年次における素ひなの出荷羽数を推計すると、1億1,454万羽（前年次より0.7%増）となり、年度では1億1,466万羽（前年次より0.8%減）となっている。

一方、令和元年次のコマーシャルのえ付け羽数は、2.0%減の1億0,447万羽（表2のM欄）と推計され、年間トータルでは、1,007万羽の余力が見込まれ、年度ベースでも、1,019万羽の余力が見込まれる。

（＊）生産見込みを算定する指標

採卵用素ひなの生産見込みを算定する指標は、種鶏の育成率97%、供用期間308日（44週）、種鶏1羽当たり素ひな生産羽数は白玉鶏が100.9羽、赤玉鶏は91.2羽、ピンク玉鶏は104.6羽とした。

4 卵殻色別種鶏導入羽数（表3）

令和元年次の卵殻色別種鶏導入計画を平成30年次の実績羽数と比較すると、白色卵は年次ベースでは前年に比べ1.7%減（年度ベースでは1.8%減）、褐色卵は年次ベースでは7.7%増（年度ベースでは0.9%の増）、ピンク卵は年次ベースでは7.5%増だが、年度ベースでは17.4%減の見込み。

卵殻色別種鶏導入羽数割合は、年により大きく変動しているが、令和元年次には、白色卵の羽数割合は62.8%（30年次64.9%）、褐色卵は29.1%（同27.5%）、ピンク卵は8.1%（同7.6%）となっている。

5 素ひな・種卵の需給動向

（1）令和元年次の種鶏導入計画羽数見込羽数は、112万5,113羽と平成30年次実績110万0,782羽に比べ1.6%増となっているが、年度で見た場合には、110万0,006羽と30年度の112万5,523羽に比べ2.3%減となっている。

（2）令和元年次の出荷羽数を推計すると、1億1,454万羽（前年次より0.7%増）となっているが、年度で見た場合は1億1,466万羽（前年度より0.8%減）となっている。

一方、令和元年次のコマーシャルのえ付け羽数を、6月以降の餌付け羽数を前年同月並と仮定すると、2.0%減の1億0,447万羽（表2のM欄）と推計され、年次トータルでは、1,007万羽の余力が見込まれ、年度ベースでも、1,019万羽の余力が見込まれる。

6 今回の調査にご協力いただいたレイヤー孵卵場は次のとおりです。(順不同) ここに厚く御礼申し上げます。

北海道・東北(2)

小岩井農牧(株)小岩井農場、(有)岩村ポーター北海道事業所

関東甲信越(8)

千葉孵化場(株)、(株)小松種鶏場、(株)I・ひよこ、(有)岩村ポーター、(株)トマル、
神奈川県養鶏経済農業協同組合連合会、(株)カントウ、イセファーム(株)(茨城)

中部(5)

とりっこ倶楽部“ホシノ”、日本レイヤー(株)、(株)大畑シェーバー孵化場、
(株)後藤孵卵場、(株)三重ヒヨコ

四国・九州(7)

(有)新延孵化場、マルイファーム(株)、(資)琉球孵卵場、(株)梶原種鶏孵化場、(株)坪井
種鶏孵化場、アミューズ(株)、(株)後藤孵卵場九州営業所

(表1) レイヤー種鶏導入調査集計表(令和元年6月調査)

一般社団法人 日本種鶏卵協会
単位:羽、%

区 分			1月	2月	3月	4月	5月	6月	上期計	7月	8月	9月	10月	11月	12月	下期計	年次計	1月	2月	3月	3ヶ月計	年度計
東日本	10	30年実績	52,275	32,000	63,500	76,300	64,400	57,967	346,442	45,100	35,900	58,542	59,000	63,000	101,480	363,022	709,464	10,000	62,974	65,100	138,074	699,763
		元年計画	10,000	62,974	65,100	74,219	64,000	47,000	323,293	82,100	26,000	42,000	74,200	94,600	19,000	337,900	661,193	73,000	57,400	26,200	156,600	679,719
		前年比	19.1%	196.8%	102.5%	97.3%	99.4%	81.1%	93.3%	182.0%	72.4%	71.7%	125.8%	150.2%	18.7%	93.1%	93.2%	730.0%	91.1%	40.2%	113.4%	97.1%
中 部	5	30年実績	5,000	39,000	12,000	43,900	14,250	570	114,720	43,000	40,000	0	34,300	18,000	0	135,300	250,020	45,000	7,500	36,700	89,200	283,220
		元年計画	45,000	7,500	36,700	28,500	250	64,570	182,520	6,500	20,200	0	26,000	46,000	7,500	106,200	288,720	35,000	16,500	0	51,500	251,020
		前年比	900.0%	19.2%	305.8%	64.9%	1.8%	11328.1%	159.1%	15.1%	50.5%	#DIV/0!	75.8%	255.6%	#DIV/0!	78.5%	115.5%	77.8%	220.0%	0.0%	57.7%	88.6%
中四国・九州	7	30年実績	17,000	0	25,900	4,000	9,000	29,000	84,900	20,340	0	15,100	11,000	17,000	0	63,440	148,340	20,000	14,000	3,100	37,100	142,540
		元年計画	20,000	14,000	3,100	29,900	28,000	0	95,000	3,000	11,000	40,400	3,000	22,800	0	80,200	175,200	0	16,300	14,920	31,220	169,320
		前年比	117.6%	#DIV/0!	12.0%	747.5%	311.1%	0.0%	111.9%	14.7%	#DIV/0!	267.5%	27.3%	134.1%	#DIV/0!	126.4%	118.1%	0.0%	116.4%	481.3%	84.2%	118.8%
全 国	22	30年実績	74,275	71,000	101,400	124,200	87,650	87,537	546,062	108,440	75,900	73,642	104,300	98,000	101,480	561,762	1,107,824	75,000	84,474	104,900	264,374	1,125,523
		元年計画	75,000	84,474	104,900	132,619	92,250	111,570	600,813	91,600	57,200	82,400	103,200	163,400	26,500	524,300	1,125,113	108,000	90,200	41,120	239,320	1,100,059
		前年比	101.0%	119.0%	103.5%	106.8%	105.2%	127.5%	110.0%	84.5%	75.4%	111.9%	98.9%	166.7%	26.1%	93.3%	101.6%	144.0%	106.8%	39.2%	90.5%	97.7%
参 考		元年推計	千羽					*	*	*	*	*	*	*	*	*	99.0%	千羽	*	*	*	95.8%
			93	98	97	123	84	120	615	98	61	88	111	175	28	563	1,177	116	97	44	257	1,146
		30年統計 (協会調べ)	千羽															千羽				
			90	71	119	129	99	92	600	117	85	81	101	110	95	589	1,189	93	98	97	288	1,197

(注1) 平成30年1月～令和元年5月は実績値（（一社）日本種鶏卵協会調べ）。

(注2) 平成30年実績カパー率(1,107,824/1,189,000=93.2%)。

(注3) 令和元年推計*は修正係数 (1,189,000/1,107,824=1.073) を元年計画羽数に乗じた羽数。

(表2) レイヤー 種鶏導入結果と素ひな生産能力 (令和元年6月調査)

(調査回答羽数によって作成)

一般社団法人 日本種鶏孵卵協会

種 鶏 餌 付	種 鶏 餌 付 羽 数 (千羽)							素 ヒ ナ の 出 荷 能 力 (千羽)							コマーシャル餌付羽数 (千羽)			備 考
	A	B	C				調査羽数(導入調査)		E	F	出荷羽数(G)				L	M	N	
	国内産	輸 入	統計(A+B)	白	赤	ピンク	回答	前年比	餌付年月	生産月	白	赤	ピンク	計	餌付月	餌付統計	前年比	
H30年1月	90	0	90	54	27	9	74	85.1	28/ 9～29/6	H30/1	6,099	2,754	1,049	9,902	H30/1	8,764	94.5	※L素ひな生産能力指標(新)
2	71	0	71	43	21	7	71	58.2	10～ 7	2	5,448	2,453	934	8,835	2	8,478	102.4	*種鶏供用期間
3	87	32	119	71	36	12	101	131.2	11～ 8	3	6,054	2,714	1,036	9,804	3	9,373	96.2	308日(44週;25～68週齢)
H29年度	1,070	104	1,174	704	352	117	1,040	93.2			70,616	31,729	12,074	114,420		108,582	100.5	*種卵の平均採取率:
H30.4	113	16	129	77	39	13	124	114.8	12～ 9	4	5,820	2,607	994	9,421	4	8,895	97.6	白93.0%、赤92.4%、ピンク94.3%
5	75	24	99	59	30	10	88	118.9	29/1～ 10	5	6,056	2,700	1,032	9,788	5	9,403	104.1	*種鶏1羽当たり種卵個数:
6	92	0	92	55	28	9	88	75.9	2～ 11	6	5,928	2,643	1,009	9,580	6	8,749	89.7	白249.8個 赤226.4個 ピンク240.9個
7	112	5	117	70	35	12	108	136.7	3～ 12	7	5,911	2,641	1,004	9,557	7	9,390	105.6	*種鶏1羽当たりひな生産:
8	85	0	85	51	26	9	76	102.7	4～30/1	8	5,828	2,603	991	9,422	8	8,446	101.3	白100.9羽 赤91.2羽 ピンク104.6羽
9	71	10	81	49	24	8	74	69.8	5～ 2	9	5,510	2,456	936	8,901	9	8,686	96.4	*C欄のH30年1月～H31年3月の種鶏♀羽数は推計値
10	101	0	101	61	30	10	104	150.7	6～ 3	10	5,831	2,602	990	9,423	10	9,472	102.7	白:赤:ピンク=6:3:1
11	110	0	110	66	33	11	98	130.7	7～ 4	11	5,771	2,588	981	9,341	11	8,781	92.2	※M欄の平成30年1月以降のえ付け羽数は
12	95	0	95	57	29	10	101	108.6	8～ 5	12	6,032	2,715	1,028	9,775	12	8,210	90.4	前年並みと仮定。
H30年計	1,102	87	1,189	713	357	119	1,107	102.5			70,289	31,475	11,985	113,749		106,647	97.6	
H31年1月	93	0	93	56	28	9	75	101.4	29/ 9～30/6	H31/1	6,042	2,727	1,034	9,804	H31/1	9,064	103.4	
2	84	14	98	59	29	10	84	118.3	10～ 7	2	5,527	2,498	951	8,976	2	7,787	91.8	
3	75	22	97	58	29	10	105	104.0	11～ 8	3	6,053	2,736	1,045	9,834	3	8,483	90.5	
H30年度	1,106	91	1,197	718	359	120	1,125	108.2			70,309	31,516	11,996	113,822		105,366	97.0	
H31.4	123	0	123	74	37	12	133	107.3	12～ 9	4	5,730	2,579	989	9,298	4	8,636	97.1	
R元,5	83	1	84	50	25	8	92	104.5	30/1～ 10	5	5,977	2,677	1,030	9,684	R元/5	8,768	93.2	
6			120	72	36	12	112	127.3	2～ 11	6	5,886	2,633	1,015	9,533	6	8,749	100.0	
7			98	59	29	10	92	85.2	3～ 12	7	6,092	2,726	1,054	9,872	7	9,390	100.0	
8			61	37	18	6	57	75.0	4～31/1	8	5,953	2,664	1,027	9,644	8	8,446	100.0	
9			88	53	26	9	82	110.8	5～ 2	9	5,684	2,543	982	9,209	9	8,686	100.0	
10			111	67	33	11	103	99.0	6～ 3	10	5,925	2,645	1,023	9,593	10	9,472	100.0	
11			* 175	105	53	18	163	166.3	7～ 4	11	5,836	2,608	1,003	9,447	11	8,781	100.0	※M欄の平成30年1月以降のえ付け羽数は
12			* 28	17	8	3	27	26.7	8～元/5	12	5,963	2,667	1,019	9,648	12	8,210	100.0	前年並みと仮定。
R元年計	—	—	1,176	706	353	118	1,125	101.6			70,667	31,703	12,171	114,542		104,472	98.0	
R2年1月			* 116	70	35	12	108	144.0	30/ 9～元/6	H31/1	6,135	2,739	1,046	9,920	R2.1	9,064	100.0	
2			* 97	58	29	10	90	107.1		2	5,734	2,560	979	9,273	2	7,787	100.0	
3			* 44	26	13	4	41	39.0	11～ 8	3	5,904	2,629	1,009	9,542	3	8,483	100.0	
R元年度	458	37	1,145	687	344	115	1,100	97.8			70,817	31,670	12,175	114,662		104,472	99.2	

表3 レイヤー卵殻色別種鶏導入計画(令和元年6月調査)

(表 3-1) 卵殼色別種鶏導入羽数

(單位：羽、%)

										(単位：羽、%)			
① 年次	平成30年次（実績）				令和元年次（計画）				対比（計画／実績）				
	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計	
東日本	511, 864	172, 000	25, 600	709, 464	475, 393	164, 600	21, 200	661, 193	92. 9%	95. 7%	82. 8%	93. 2%	
中部	124, 950	84, 400	40, 670	250, 020	133, 950	98, 600	56, 170	288, 720	107. 2%	116. 8%	138. 1%	115. 5%	
中四国・九州	82, 320	47, 820	18, 200	148, 340	97, 400	64, 400	13, 400	175, 200	118. 3%	134. 7%	73. 6%	118. 1%	
計	719, 134	304, 220	84, 470	1, 107, 824	706, 743	327, 600	90, 770	1, 125, 113	98. 3%	107. 7%	107. 5%	101. 6%	
② 年度	平成30年度（実績）				令和元年度（計画）				対比（計画／実績）				
	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計	
東日本	483, 663	185, 600	30, 500	699, 763	490, 619	167, 900	21, 200	679, 719	101. 4%	90. 5%	69. 5%	97. 1%	
中部	134, 450	101, 100	47, 670	283, 220	100, 450	110, 900	39, 670	251, 020	74. 7%	109. 7%	83. 2%	88. 6%	
中四国・九州	80, 320	48, 020	14, 200	142, 540	95, 120	58, 800	15, 400	169, 320	118. 4%	122. 4%	108. 5%	118. 8%	
計	698, 433	334, 720	92, 370	1, 125, 523	686, 189	337, 600	76, 270	1, 100, 059	98. 2%	100. 9%	82. 6%	97. 7%	

(表 3-2) 卵殼色別種鶏導入羽数割合

資料：（一社）日本種鶏孵卵協会調べ

① 年次								
	平成30年次（実績）				令和元年次（計画）			
	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計
東日本	72.1%	24.2%	3.6%	100.0%	71.9%	24.9%	3.2%	100.0%
中部	50.0%	33.8%	16.3%	100.0%	46.4%	34.2%	19.5%	100.0%
中四国・九州	55.5%	32.2%	12.3%	100.0%	55.6%	36.8%	7.6%	100.0%
計	64.9%	27.5%	7.6%	100.0%	62.8%	29.1%	8.1%	100.0%

② 年度								
	平成30年度（実績）				令和元年度（計画）			
	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計
東日本	69.1%	26.5%	4.4%	100.0%	72.2%	24.7%	3.1%	100.0%
中部	47.5%	35.7%	16.8%	100.0%	40.0%	44.2%	15.8%	100.0%
中四国・九州	56.3%	33.7%	10.0%	100.0%	56.2%	34.7%	9.1%	100.0%
計	62.1%	29.7%	8.2%	100.0%	62.4%	30.7%	6.9%	100.0%

(表 3-3) 卵殼色別地域別構成比

[illegible]